

オンライン連続セミナー

労働者協同組合

第1回 資本に対抗する下からのグレート・リセット構想(2月22日、月曜日)

第2回 21世紀の協同組合論(2月26日、金曜日)

第3回 協同組合を通じた社会的連帯経済に関する最近の動き(3月5日、金曜日)

第4回 労働者協同組合法の解説(3月8日、月曜日)

講師 境 毅(生活クラブ京都エル・コープ)、時間 19:30-21:00(毎回同じです)

昨年国会で労働者協同組合法が可決成立し^(注1)、2年以内に施行される運びとなっています。誰かに雇われるのではなく、自分たちで自分たちを雇う組織を政府も公式に承認したのです。

私は、1988年から、生協設立準備にかかわり、生協設立後は非常勤理事として生協にかかわりながら、新規就農者への聞き取りを行ってそれを書籍にまとめたり、1998年からは、引きこもりの若者たちを支援するNPOにかかわって、その事業で生まれた働く場をワーカーズ・コレクティブ^(注2)として運営していくことを追求してきました。さらには障害福祉事業サービス事業を立ち上げたりもしてきました。そのほかには、NPOや労働組合や社会的企業を横つなぎして社会的経済を発展させる、というミッションで立ち上げられた共生型経済推進フォーラムに参加し、2009年の政権交代時には、社会的企業の法制化を求めて政策提言にも取り組みました。

私自身の活動を振り返ることを通じて、実践的な必要に迫られて書いてきた文書類を抜粋して報告のレジュメを用意しているときに、コロナ禍のなかで、ショックドクトリン^(注3)に従って、資本が進めようとしているグレート・リセット構想^(注4)を知りました。これに対抗する下からのグレート・リセット構想が問われていることが判明し、その構想を縮小社会研究会の活動を土台に作りだすことが必要だと認識するようになりました。4回に分けて、労働者自らが組合を組織する意義についてお話しします。境

注1) 労働者協同組合：協同組合の一形態で、そこで働く労働者自身が主として資金を持ち寄り、労働者自身によって所有・管理される協同組合である。同法は2年以内に施行される。現在はNPOや企業組合として運営している。

注2) ワーカーズ・コレクティブ：労働者協同組合

注3) ショック・ドクトリン：惨事便乗資本主義で、政変・戦争・災害に便乗して、市場原理主義的な都市整備や教育改革等を行うこと。ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン』(岩波書店)参照。

注4) グレート・リセット構想：昨年のダボス会議で提案された、デジタル経済のもとでの経済、社会、生活様式にまで至る根底的な変革。シュワブ『グレート・リセット』(日経ナショナルジオグラフィック社)参照。

申し込み方法：Peatixからお申し込みください。<https://peatix.com/event/1797004/view>

当日連絡先：長谷川浩(090-6226-9612)

主催：一般社団法人 縮小社会研究会 & 母なる地球を守ろう研究所